

ごめんね、もえちゃん
(資料分析を行い、発問を工夫した指導)

学校名 (呉市立阿賀小学校)

- 1 学年 第2学年2組
- 2 主題名 やさしくね 【2- (2) 思いやり・親切】
- 3 本時のねらい たっちゃんの気持ちを話し合うことを通して、相手の気持ちに寄り添って親切にしようとする心情を育てる。
- 4 資料名 「ごめんね、もえちゃん」
(出典:「かがやけ みらい どうとく2年」【学校図書】一部改作)

5 授業の展開例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点						
導入	1 親切について考える。	○ 誰かに親切にしてもらったことはありますか。また、その時、どんな気持ちになりましたか。 ・こぼしたお茶をふいてもらって、「ありがとう。」と思った。	○ 親切にされて嬉しかった経験を想起させることで、資料への方向付けをはかる。						
展開前段	2 資料(前半)を読んで話し合う。 3 資料(後半)を読んで話し合う。	○ たっちゃんは、どんな気持ちでもえちゃんの画用紙に色をぬったのでしょうか。 ・もえちゃんが早くできるように手伝ってあげよう。 ・ぼくの方が上手だから、ぬってあげよう。 ・もえちゃんは喜ぶだろう。 ○ ぷんぷんおこっているもえちゃんを見て、たっちゃんはどうか考えたのでしょうか。 ・親切にしてあげたのに、怒ることないじゃないか。 ・なんで怒ったんだろう。 ・じぶんでやりたかったのかな。 ◎ 嬉しそうなもえちゃんを見て、はずかしくなったたっちゃんは、どんなことを考えていたのでしょうか。	○ もえちゃんが色ぬりに時間がかかっていることを確認し、たっちゃんは親切のつもりで色をぬったことに気付かせる。 ○ もえちゃんが喜ぶと思ったのに、怒ってしまったことに着目させ、疑問や怒った理由を考えさせる。 ○ ワークシートに書かせた後に、ペアトークをさせることで、考えを広げさせる。そして、全体で発表し、考えを共有させる。						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">予想される児童の反応</p> <p>ア 自分で色をぬりたかったんだな。 イ さっきは勝手に色をぬってごめんね。 ウ 親切のつもりで色をぬったけど、もえちゃんの気持ちを考えていなかったな。 エ もえちゃんの気持ちを考えて親切にしたらよかったな。</p> </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">➔</td> <td style="width: 40%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">それに対する問い返し</p> <p>○「親切にしたいくて色をぬったのにね。何が足りなかったのかな。」と問い返すことで、相手の気持ちを考えることが大切だと気付かせる。 ○「何もしない方がよかったのかな。」と問い返すことで、相手の気持ちに寄り添って考えることができるようにする。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 5px;"> <p>動作化させることで、相手の気持ちに寄り添った親切のよさを実感させる。</p> </td> </tr> </table>				<p style="text-align: center;">予想される児童の反応</p> <p>ア 自分で色をぬりたかったんだな。 イ さっきは勝手に色をぬってごめんね。 ウ 親切のつもりで色をぬったけど、もえちゃんの気持ちを考えていなかったな。 エ もえちゃんの気持ちを考えて親切にしたらよかったな。</p>	➔	<p style="text-align: center;">それに対する問い返し</p> <p>○「親切にしたいくて色をぬったのにね。何が足りなかったのかな。」と問い返すことで、相手の気持ちを考えることが大切だと気付かせる。 ○「何もしない方がよかったのかな。」と問い返すことで、相手の気持ちに寄り添って考えることができるようにする。</p>	<p>動作化させることで、相手の気持ちに寄り添った親切のよさを実感させる。</p>		
<p style="text-align: center;">予想される児童の反応</p> <p>ア 自分で色をぬりたかったんだな。 イ さっきは勝手に色をぬってごめんね。 ウ 親切のつもりで色をぬったけど、もえちゃんの気持ちを考えていなかったな。 エ もえちゃんの気持ちを考えて親切にしたらよかったな。</p>	➔	<p style="text-align: center;">それに対する問い返し</p> <p>○「親切にしたいくて色をぬったのにね。何が足りなかったのかな。」と問い返すことで、相手の気持ちを考えることが大切だと気付かせる。 ○「何もしない方がよかったのかな。」と問い返すことで、相手の気持ちに寄り添って考えることができるようにする。</p>							
<p>動作化させることで、相手の気持ちに寄り添った親切のよさを実感させる。</p>									
展開後段	4 自分の経験を振り返る。	○ たっちゃんのように、相手の気持ちを考えながら親切にしたことがありますか。	○ 友だちを温かく見守ったり、教えてあげたりしたエピソードを紹介する。						
終末	5 読み聞かせを聞く。	○ いろいろな親切がありますね。最後に、このお話を聞いてください。	○ 「心のノート」の作文を読み聞かせ、温かい気持ちを感じさせながら終わる。						

活用に生かすための実践報告

呉市立阿賀中学校区

1 地域や児童の実態

全体的に明るく、温かい雰囲気をもっている児童が多い。また、挨拶運動に継続的に取り組んできた結果、地域や保護者に挨拶をする児童が増えてきている。

しかし、相手を意識して話したり伝えたりすることができている児童が十分とは言えないことから、人間関係をつくる力や共感する力、思いやりの心が弱い児童が多いと考えられる。また、自分のよさが回りの人に認められていると考えている児童が少ないことから自尊感情が低い児童が多いと考えられる。

2 教材開発及び指導過程の工夫

中心発問後、ワークシートを使用し、自分の考えを持たせた後、ペアトークによって自信を付けさせ、考えを広げさせた。その後、色のぬり方を教える場面で、たっちちゃんになって動作化させることで、相手の気持ちに寄り添った親切のよさを実感させた。

板書では、登場人物の顔の表情や挿絵を提示して、主人公の気持ちの変化を視覚化した。

児童が日常生活の中で相手の気持ちを考えて親切にした時のことを話し合わせたり紹介したりすることで、「わたしたちも親切にすることができてよかった。」という喜びや、「こういうふうに親切をしたらいいんだな。やってみよう。」という意欲をもたせることができた。

終末では、「心のノート」の作文を読み聞かせ、思いやり・親切のよさを感じ取らせる。

事前・事後の体験活動を道徳の時間と意識的に関連させることにより親切にしようとする心情を育てていくようにした。

3 発問の工夫

資料分析を行う時、資料の内容を出来事ごとに分け、登場人物の気持ちや言動の変容に着目し、中心発問や補助発問等を考えた。その際、

児童の日常生活及び体験活動での実態をもとに中心発問や問い返しを工夫した。

中心発問は、「相手の気持ちを考えた親切な行為」について十分考えさせたいと思い、主人公の気持ちが変わった場面に設定した。

また、児童の反応に対する問い返しも考えておき、もえちゃんの気持ちにも寄り添って考えさせることで、親切にする大切さに気付かせるようにした。

4 児童の反応

【中心発問での反応】

- ・自分でぬりたかったんだ。
- ・勝手に色をぬってしまった。
- ・もえちゃんにあやまろう。

【児童の反応に対する問い返しでの反応】

- ・「ここ何色がいい？」と聞いたらよかった。
- ・色をぬらずに教えてあげるとよかった。

5 成果と課題

本推進地域では、①資料分析をする②発問の構成を考える③指導過程を考える④指導方法を工夫するという4つの視点を小中合同研修の場で共有してきた。また、中心発問を考えるために、中心場面を見付け、主人公の心の変容のプロセスを明確化し、資料分析の仕方について共有することができた。本教材についても小中複数の教員で資料分析を行うことで、より価値に迫る発問を考えることができた。本時の中心発問についても、主人公の気持ちの変容を捉え、気持ちが大きく変化したところを取り上げることにより、児童はねらいとする道徳的価値について考えることができた。更に、問い返しをすることにより、道徳的価値に迫る発言が聞かれた。一方、ねらいとする道徳的価値に迫れない児童に対しては、より心に響く発問の工夫をしたり、体験活動の中で意図的に考える場を設けたりしていくことが必要である。